

＜新型コロナウイルス感染防止＞

ゴールデンウィークは、各家庭で様々な過ごし方があったのではないのでしょうか。昨年と違い大分活動の幅が広がった様でした。県外から帰省されたり、県外へ旅行等に行かれたりと楽しい時間を過ごされたことと思います。国道沿いのキャンプ場にもたくさんのテントが張られている様子を見る機会もありました。コロナ禍ではありますが、コロナ前の日常が少しずつではありますが戻ってきた感じがしました。

しかし連休中もコロナ感染者は、400人を超える水準で推移しており、感染防止に注意する必要があります。特に十代、十歳未満の子ども達の感染が多く、クラスターの発生も多く報告されています。いつ、どこで、だれが、感染するか分からない状況に変わりはないようです。基本的感染対策の徹底を図るとともに、人の多い場所への外出の自粛や大人数での会食の自粛など、自分達でできる防止策の実施をお願いします。

＜子ども達の居場所となる保育園へ＞Ⅰ

子ども達が、元気に楽しく行きたい保育園になるためには、一人ひとりが安心して園生活ができる居場所が準備されていることも大切だと考えています。

その一つは、私たち保育者自身の対応です。保育士だけではなく、事務室の職員、給食室の職員、バスの運転手や講師の先生、ひまわりこども園全ての職員が、子どもの気持ちや思いを受容し、子どもの思いに寄り添った対応を行う必要があります。ひまわりこども園の職員は、そのようなことを考えながら、子どもの目線で話を聞いたり、話をしたりなど基本的なことを確実に行うようにしています。私たち保育者自身が、居場所としての環境の大切な一つとして、子ども達が安心して園生活を送れるように意識して保育活動を行っています。子ども達の憧れる存在としての環境になれるよう努力していきます。

＜大切にしたい考え方＞

- 子どもの主体性を高める
幼児教育
- 興味関心を大きくする環
境構成
- 生活の場としての園生活

ひまわり4

元気な子どもたちとともに

＜教育目標＞

元気で思いやりのある
ひまわりっ子

＜職員目標＞

- チームワーク
- 主体性を育む保育
- 資質向上

＜子ども達の居場所となる保育園へ＞Ⅱ

子ども達の中には、初めて入園して、不安な気持ちで過ごす子どもいます。また、その日の状況によっては、年長組さんのお友達でも不安な気持ちで過ごす



日もあります。その時は、保育者が優しく抱っこしたり、おんぶしたり、手を繋いでいたり、元気が出るまで側に寄り添ったり、保育者が子どもの居場所になれるよう保育活動を行っています。人は人との関係性の中で生活、成長していきます。特にこの年代の子ども達にとって、優しく見守って貰っている。誰かが側にいてくれると感ずることは、愛着関係をつくる上でとても大切なことです。そのことが自己肯定感を高めることにも繋がります。

＜子ども達の居場所となる保育園へ＞Ⅲ

たいよう組さんの部屋の廊下には、物作りの好きな子ども達のためのスペースが準備してあります。物作りの好きな子ども達は



保育者に伝えた後、粘土を使った遊びやお絵描きなど、自分がやってみたいこと、やりたいことを行っています。先週の登園時に見に行くと、粘土を使って動物を作っていました。とても上手に、実在する動物から空想の動物になったり、発想豊かに作っていました。作っているところに話しかけると、「これは足です。曲がっているんだよ。こっちの方にも足をつけるんだよ。」等、いっぱい話をしてくれました。自分のやりたいことが実現できる場所があることは素晴らしいなと感じました。